【樹木の部屋】

<u>ローズマリー(シソ科マンネンロウ属 Rosmarinus officinalis)</u>

和名:マンネンロウ(迷迭香) 別名: 英名:rosemary

シソ目 常緑低木 原産地: 地中海沿岸

花言葉: 追憶、思い出、記憶、貞節、あなたは私を蘇らせる、誠実、変わらぬ愛、

私を思って、静かな力強さ

花の色:桃、白、青、紫



← ↓ 写真-1、2 ローズマリー

撮影日:2019年02月20日

撮影場所:ポルト(ポルトガル)にて

撮影者:M さん



ローズマリーは、古くから薬用 に用いられてきたハーブの一種

で、大きく分けて、立性、匍匐(ほふく)性、半匍匐性(半立性)3つの種類があります。

ポルト(ポルトガル)のドウロ河畔とピラールの丘を結ぶロープウェイの乗り場近くの花壇で見かけました。国内でも、多く見られる植物です。

成長すると高さ 1.8 メートルに達する常緑灌木で、暑く乾燥した気候を好みます。縁が厚くなった細長い葉を付け、冬から春にかけて枝先に総状花序を出し、唇形の青や紫がかった白い花を付けます。日本へは中国を経由して江戸時代の末期に渡来したそうです。

ローズマリーの名前には、花姿を「海のしずく」に例えてラテン語のローズ(しずく)+マリナス(海の)からという説と、聖母マリアのバラを意味する「rase of maria」が由来で、聖母マリアが衣を被せたところ、白いローズマリーが青色になったという言い伝えから誕生したという説の2つの語源があるそうです。

ローズマリーは、一般にその年の初夏以降に伸びた新しい枝に花が付きやすい植物です(匍匐性など、例外もあります)。きちんと剪定をすることで株に刺激を与えて新しい枝を伸ばし、花の付きを良くすることにも役立ちます。剪定にはタイミングが大事で、あまり遅いとその年の花に影響が出やすくなります。一般的には、花が終わって半月ぐらいから一月後ぐらいが目安です。地域にもよりますが4月~6月ぐらいになります。それ以降に剪定を行うと、その年の秋からの花が咲きにくくなるので要注意です。

剪定に際しては、木質化したところからは新しい葉は非常に出にくいため、剪定しすぎないよう、葉は必ず残して剪定するようにしてください。止むを得ず、葉を少しだけ残して剪定することもありますが、枝が伸びるまでにはかなり時間がかかります。播種・挿し木のどちらでも繁殖させることができます。

乾燥させた花や葉がハーブティーや薬草、香辛料、食料として使われます。育てやすさと一年を通して収穫が可能な楽しみ方の広さから、家庭菜園やハーブ栽培、ガーデニングに人気があるそうです。

薬草は、水蒸気蒸留法で精油を抽出して作られます。このほか、ハーブティーや化粧水として利用されますが、精神安定の効果だけでなく、集中力や記憶力を高める効果もあるそうです。

薬用としては、葉の浸出液が強壮剤や収斂剤などに処方されたり、リウマチや外傷に外用されたりするなど、重宝な薬草として栽培されてきたそうです。強力な抗酸化成分であるロスマリン酸を含有することが発見され、若返りのハーブとしての古くからの評判が再認識されつつあり、種類がとても多いローズマリーですが、どの種類でも薬効はほぼ同様であると考えられているそうです。